

ナカシマホールディングス（岡山市、HD）と、化学・合成繊維大手の帝人（大阪市）が共同出資で今春設立した人工関節メーカー「帝人ナカシマメディカル」（岡山市東区上道北方）。両社が持つ金属加工技術や営業力といった強みを結集し、欧米メーカーに対抗する。帝人グループ出身で、初代トップに就いた坪倉正行社長（54）に戦略を聞いた。（久万真毅）

帝人ナカシマメディカル

坪倉 正行社長

人工関節事業の展望は

アジアで市場開拓

欧米対抗へ品ぞろえ強化

販売力アップが課題だけに売り込んでいく。ただ、提携は互いにメリ

に売っていき、ただ、まだ手探りの状態。両社の技術グループが交流

ットを享受できるとみて、急転直下で決まった。

2020年までに国内シェア10%、売上高100億円を目標に掲げている。

帝人は医薬品と在宅医療部門で約1500人の営業スタッフを抱えている。整形外科などに帝人ナカシマの製品を積極的に

は膝と股関節がメインで、欧米メーカーに比べて品ぞろえが少ない。今後はM&A（合併・買収）も検討課題となるだろう。

新製品開発への体制づくりは。

帝人ナカシマメディカル ナカシマHDの100%子会社。旧ナカシマメディカルを母体に4月1日設立した。資本金は1億円で、ナカシマHDと帝人が50%ずつ出資。従業員約190人。旧ナカシマメディカルの売上高は29億円（2014年11月期）。

会を始めたばかりで、互いの持つ素材と技術をどう融合するかを検討している。例えば、帝人の繊維を使って人工関節の靱帯をつくる案も出ていく。

人工関節は高齢化が進む日本をはじめ、国内では高く、安全性をクアドルリアしなくてはならない。

人工関節は自力で歩けるに勝た抜くには。欧米メーカーとの競争に勝た抜くには。欧米メーカーとの競争に勝た抜くには。

削減も難しい。日本メーカーの弱点はそこにある。当面は日本人と体格が似ているアジアでの市場開拓に力を注ぐ。足掛かりとして5月、タイに



つぼくら・まさゆき 1983年、藤沢薬品工業（現アステラス製薬）入社。2005年に帝人ファーマに入り、在宅医療業務部長など歴任。同社子会社の帝人在宅医療取締役から4月1日付で就任した。関西大経済学部卒。兵庫県尼崎市出身。

1共同出資会社を設立した狙いは。帝人は繊維などの素材事業が強みで、用途開発が課題となっていた。人工関節への応用がでないかという議論もあり、昨秋にナカシマHDに提携を持ちかけた。ナカシマ側も欧米メーカーに押されて国内シェアが3%にとどまり、

人工関節は自力で歩けるに勝た抜くには。欧米メーカーとの競争に勝た抜くには。欧米メーカーとの競争に勝た抜くには。